

e-ビーフNEWS 北の牧場から

November 2021

十勝は晩秋

日に日に気温が下がって朝は0℃、日中でも10℃と一段と寒くなりました。お日様の出るのも遅く6時ごろまで暗く、引っ込むのも4時を過ぎると薄暗くなります。日の入りも傾斜が緩くなり部屋の奥まで入ってきます。紅葉はピークを過ぎ、落葉カラマツの黄金の針もパラパラと散らかし始めました。十勝の初霜初氷は、10月末の例年の1週間遅れ、遅かったですね。

公共牧場の牛の下牧も終わり、各牧場に戻ってきています。畑作農家の最終の仕事、ビート堀やナガイモ収穫作業で、ねばつく畑に泥だらけになりながら作業機や人が畑を回っています。牧場の農作業も、デントコーン積み、三番草の収穫が終わり冬の準備は万端(かな?)後は雪の使者を待つだけです・・・と言いたいです。



活動のお知らせ

10/28(木) 北海道畜産公社 第11回北海道肉専用種枝肉共励会

肉専用種22頭(日本短角種、アンガス種) 参考出展枝肉8頭

《最優秀賞(北海道知事賞):えりも高橋牧場 日本短角種》《優良賞:宮北牧場(北広島町) アンガス種》

《赤身賞:北里大学FSC八雲牧場 日本短角種》

同日 とかちプラザ 第18回資源循環型肉牛生産シンポジウム2021

基調講演「持続的な畜産物生産を目指して～みどりの食料システム戦略～」

講演者:北海道農政生産振興局畜産振興課主幹 叶 拓斗氏

話題提供1.(生産者)「北大静内研究牧場の持続可能な畜産を目指して」

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 耕地圏ステーション 静内研究牧場牧場長 准教授 河合 正人氏

話題提供2.(流通関係)「消費者目線で持続可能な食料生産システムを考える」

生活協同組合連合会 コープ自然派事業連合 商品部統括マネージャー 前田 陽一氏

話題提供3.「肉牛専用種枝肉共励会の成績について」および授賞式

司会:帯広畜産大学 教授 口田圭吾氏と受賞生産者

パネルディスカッション パネラー:講演者、消費者代表 参加者:75名 モニター参加者20名

NEWSばか読み

- 飼養衛生管理基準改正 畜舎ごとに管理者配置10/1:管理強化
- 野村総研 環境配慮型職人購買意向調査 6割10/1:関心度高く
- 食料品 10月から値上げ相次ぐ10/1:困る人が
- 東大ほか 人工光合成 大規模実証で実用化に近づく
10/1:お日様エネルギー
- 米国農務省 アフリカ豚コレラワクチン ウィルス抑制確認
10/2:期待
- 生乳3年増産 21年度乳製品在庫 高水準10/2:制乳へ
- 丸井グループ 植物肉ベンチャーDAIZに出資10/5:拡大に
- すかいらーくグループ テイクアウトにプラから木製スプーン
10/5:浸透
- 北大、岩見沢市 農業機器複数を数十kmから遠隔操作実証実験
10/6:進む
- 生鮮ジャガイモ 昨年輸入解禁後輸入倍増 北海道天候不順から
10/7:常態化不安
- 都立大 島根大 稲×小麦の雑種 電気融合で誕生10/7:メリットは
- 北海道酪対 生乳増産基調で抑制検討10/8:ついに対策
- 農研機構 牛アミノ酸飼料で温室ガス半減 肥育で実証実験
10/9:検証
- 森林の高齢化 CO₂吸収率2割減 放置林問題10/10:林業の復活
- 9月が外食売上 業態格差広がる ファーストフード伸び居酒屋
ファミレス減10/12:
- 畜産基金 支給遅れが常態化し膨張、TPP対策など意義薄れ
10/13:柔軟性必要
- コム作況21年 全国100北海道108西日本低迷 収穫予想700万t
10/13:コム余り
- COP15 中国昆明で開催 生態系保全目標を採択
10/15:中国主体でもOK
- コロナ禍で飲食4万5千店が閉店に10/17:業態再編時期
- 農林水産省 JAS有機認証手続きの簡略化に着手 資材リストや
リモート調査10/18:早くやってよデジタル化
- FAO 9月食品価格指数10年ぶりに最高値 穀物価格上昇
10/19:弱い国飢餓
- 林野庁 20年の木材自給率4割 48年ぶり 発電用需要増
10/19:燃えちゃうのか
- 外食8月決算 黒字に回復 協力金貢献10/19:外食経営実態
- Jミルク 生乳需給大幅緩和から一時的出荷抑制検討
10/21:来たぞミルク破棄
- 野菜急落全面安 気温上昇で増産、4年ぶり低水準
10/22:今日は鍋物
- スーパー9月 売上高堅調 購買意欲は小幅悪化
10/22:需要変化の兆し
- 国連報告 30年温暖化ガス16%増 排出目標追いつかず
10/26:根本解決ならず
- Jミルク 生乳出荷抑制に、早期乾乳、全乳哺育推奨
10/27:自助努力
- 農林水産省 温室ガス削減目標3.5% みどりの戦略踏まえ
10/28:農業の責任範囲
- 静岡JA三ヶ日みかん AI完全選果場竣工 農業高齢者対応
10/29:対策対応
- メタン排出削減の国際取組みに、豪州牛肉生産の影響から参加
拒否10/29:おいおい

ホルス

ホルス相場は横ばい状況。
出回り頭数が少ないことから相場高値維持の要因。
販売状況は緊急事態宣言明けから外食原料等は若干上向きも、量販向けチルド品切落関係は低調。
季節部位のカタロースは完全に不足しておりヒレやスネも問合せ増。
輸入物も高値と不足状況から代替的に問合せは増加しているが、輸入アイテムの完全代替には数量や価格面で至らず。

経産牛

経産牛相場はやや下落基調で落ち着いてきている。
販売状況は外食向け原料の問合せが増加してきており、特にバラは欠品継続、カタロース系も不足。
逆に赤身関係は鈍く、産地によっては販売不振から在庫過多の情報。
切落し需要もひと段落しており、やはり量販需要が停滞している。
挽き材は各社全般販売鈍く、在庫抱えている模様。カウミートの先行き不透明から、国産へのシフト可能性もあり動向に注視。

左先生の畜産学研究NEWS

1.北海道畜産草地学会報9: 2.(2021)第10回大会講演要旨

シンポジウム「北海道におけるSDGs達成に向けた畜産草地研究」

1)家畜特に乳牛の遺伝・育種におけるSDGsに向けた取り組み(増田豊、酪農大)

家畜の改良目標は時代と共に変化し、近年は畜産における環境負荷軽減に育種選抜で反芻家畜のメタン産生の改善が図られています。メタン産生の遺伝率は0.1-0.4と推定され、育種選抜でのメタン産生減少が可能とされるに至っています。

2)ルーメン微生物の制御と反芻家畜生産のSDGs(小池聡、北大)

反芻家畜のルーメン微生物は体重の約2%に相当し、畜産における環境負荷要因とされている反芻家畜のルーメン発酵によるメタン生成が、カシューナッツ殻液(CNSL)などのルーメン発酵調節資材によりメタン産生が抑制され、発酵調節技術の進化と共にSDGs目標達成が期待されます。

3)持続的な酪農・畜産業に対する消費者評価(岩本博幸、帯畜大)

SDGsには持続可能な家畜生産の形態確保があり、家畜排泄物等の環境負荷は生産者が環境コストを内部化するだけでは市場が成り立たず環境コストの消費者転嫁が課題です。著者の札幌の住民アンケート調査の分析によると、牛乳の事例で消費者の支払意思額の推計では、1L/150の普通牛乳では12の評価額となり、消費者は割高でも環境対策が保証された牛乳を選択しました。

2.日畜学会第129回大会(2021.9.13-16,東北大.オンライン開催)講演要旨

メインシンポジウム「畜産学のレジリエンスと進化」

1)提言:健全畜産シナジー強化の創出(北澤春樹、東北大)

世界の人類が新型コロナウイルスの感染症に翻弄される以前から畜産学領域は豚の例にみられるようなウイルス感染症への対応が動物性食品供給者として重要課題でした。畜産学の本来の性質上多様な研究領域を持ち、その融合でシナジー効果を発揮して、レジリエンスという回復力や弾性を引き出して進化することがポストコロナの畜産学ではより一層期待されています。

2)基調講演「畜産学に裏打ちされた畜産業の展望」(眞鍋昇、大阪国際大、家改セ)

畜産学は畜産業領域の基礎的科学として社会に貢献してきました。新興家畜伝染病・人獣共通伝染病からの防疫や食の安全、アニマルウェルフェア規格に沿った飼養衛生管理システムの構築などがあり、今後も社会に貢献する基盤科学としての畜産学の発展が必要不可欠です。

3)パラレルシンポジウムⅢ、黒毛和種の子牛飼養管理と生理・生体情報の活用(世話人: 盧尚建、東北大)

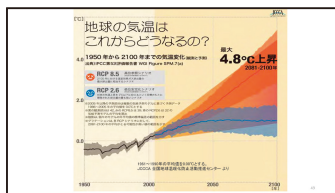
黒毛和種子牛の発育と健康性に関わる飼養管理法と生理・生体情報を研究者4人の報告について質疑を行いました。以下紙面の都合上、演題のみとします。

- (1)木村信昭(木村畜産技術士事務所)「黒毛和種子牛の飼養管理の重要性」
- (2)乙丸孝之介(鹿児島大)「黒毛和種における個別型哺乳ロボットならびにビタミンを活用した飼養管理について」
- (3)鳥井伸一郎((株)科学飼料研究所)「子牛のミナラル・ビタミン栄養:母乳と代用乳の違い」
- (4)武本智嗣(JA全農)「育成牛の輸送による悪影響とその低減に関する取り組み」

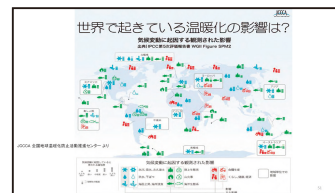
資源循環型肉牛生産シンポジウム 2020

話題提供3.「Withコロナの視点～消費者からみた新スタイル」 全5回シリーズ⑤

(株)グロシー 代表 北村貴氏



国連の「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)」
今後2℃以上上昇すれば、
肥沃だった土地は砂漠となり、
干ばつや洪水などによって
食料の栽培と生産を脅かすと警告。
そのうえで、2050年までに世界の穀物価格は
最大23%上がる可能性を示唆
温暖化による食料難民が大幅に増大する
(一説には10億人とも…)



温室効果ガス
＝
二酸化炭素、窒素、メタンなど
家畜由来は14.5%(国連食糧農業機関)
「環境型ヴィーガン」が増加



キーワード
サステナブル
ダイバーシティ
ローカル
エコロジー
エシカル

消費者は、
モノの裏側にあるテーマを考える
環境に配慮されたものを優先して買う
地域に配慮されたものを買う
人・社会に配慮されたものを買う
社会の役に立つ買い方。
商品の背景やつながりを理解して
自分で選んで買う

コロナは社会全体を
強制的にコンフォートゾーンから
次の世界へとシフトさせます。
今はチャンスのタイミング!
バブルもITも同じでした

ラストメッセージ

マーガレット・ミード
アメリカの文化人類学者。
コロンビア大学で彼女を指導
したルース・ベネディクトと共に
20世紀末まで代表する文化
人類学者と評価されている。
「社会的・文化的性」という
意味でのジェンダー研究を行った
先駆者でもある

未来とは今である

次回から
資源循環型肉牛生産
シンポジウム2021の
講演資料掲示

転載・再利用は固くお断りします